【事後調査の結果】

調査項目：水質汚濁

予測した事項　ＳＳ(浮遊物質量)の濃度

1　調査地域

計画区域内及びその周辺とした。

2　調査手法

(1)　調査事項

ア　予測した事項

ＳＳ(浮遊物質量)の濃度とした。

イ　予測条件の状況

1)　雨水流出防止対策及び濁水対策の状況

2)　放流の状況(ＳＳ、流量)

3)　降水量の状況

ウ　環境保全のための措置の実施状況

(2)　調査時点

ア　予測した事項

切盛土工事期間中の降雨時 2 回とし、調査期日は表 4-1 に示すとおりである。

事後調査で対象とした雨量は、評価書で設定した通常の降雨時(10mm/hr 未満)とし、降り始めからの降水量が 22～60.5mm のまとまった降雨の後に実施した。

なお、強い降雨時(10mm/hr 以上)に対しては、評価書で設定した対策と同様に仮設調整池及び仮設沈砂地で濁水の濃度を低減し、三沢川の排水能力に応じた量で適切に排水している。

表 4-1　水質汚濁の調査期日

降雨時		調査期日
平成 30 年度	1 回目	平成 30 年 9 月 11 日(火)
	2 回目	平成 31 年 3 月 1 日(金)
令和元年度	1 回目	令和元年 12 月 23 日(月)
	2 回目	令和 2 年 3 月 30 日(月)

イ　予測条件の状況

1)　雨水流出防止対策及び濁水対策の状況

工事の施行中の適時とした。

2)　放流の状況（ＳＳ、流量）

予測した事項の調査期間と同様とした。

3)　降水量の状況

予測した事項の調査期間と同様とした。

ウ　環境保全のための措置の実施状況

工事の施行中の適時とした。

(3)　調査地点

ア　予測した事項

図 4-1 に示す計画区域の三沢川上流側と下流側の 2 地点とした。

イ　予測条件の状況

1)　雨水流出防止対策及び濁水対策の状況

工事区域内とした。

2)　放流の状況（ＳＳ、流量）

図 4-2 に示す仮設調整池(A 工区(1 か所)、E 工区(1 か所)、F 工区(2 か所))及び本設調整池(第 1、第 2(各 1 か所))の放流口の計 6 か所とした。

3)　降水量の状況

気象庁地域気象観測所の府中観測所とした。

ウ　環境保全のための措置の実施状況

計画区域内とした。

図 4-1　水質汚濁調査地点図

図 4-2　仮設・本設調整池設置箇所図

(4)　調査方法

ア　予測した事項

浮遊物質量(ＳＳ)は、環境庁告示第 59 号付表 9「浮遊物質量(ＳＳ)の測定方法」に掲げる方法とした。

採水状況は写真 4-1 に示すとおりである。

写真番号①

撮　影　日：令和2年3月30日(月)
撮影位置：図4-1(p. 93)参照

写真4-1　現地調査状況写真(三沢川下流側)

イ　予測条件の状況

1)　雨水流出防止対策及び濁水対策の状況

現地踏査(写真撮影)及び関連資料の整理とした。

2)　放流の状況(ＳＳ、流量)

浮遊物質量(ＳＳ)は、予測した事項と同様とし、流量は、「JIS K 0094 8 流量の測定」に掲げる方法とした。

3)　降水量の状況

既存資料(降水量観測結果)を整理する方法とした。

ウ　環境保全のための措置の実施状況

現地踏査(写真撮影)及び関連資料の整理とした。

３　調査結果

(1)　事後調査の結果の内容

ア　予測した事項

1)　平成 30 年度調査

浮遊物質量(ＳＳ)の調査結果は、表 4-2(1)～(2)に示すとおりである。

浮遊物質量(ＳＳ)は、降雨時 1 回目の調査で、三沢川上流側が 5mg/L、下流側が 12mg/L であった。降雨時 2 回目の調査では、三沢川上流側が 5mg/L、下流側が 9mg/L であった。

河川流量は、降雨時 1 回目の調査で、三沢川上流側が 0.116m^3/s、下流側が 0.265m^3/s であった。降雨時 2 回目の調査では、三沢川上流側が 0.107m^3/s、下流側が 0.242m^3/s であった。

表 4-2(1)　水質測定結果（降雨時 1 回目）

項　目	平成 30 年 9 月 11 日（火）	
	三沢川上流側	三沢川下流側
調査時刻	12:33	11:56
天　候	曇	曇
気温（℃）	24.3	24.1
水温（℃）	23.2	23.5
流量（m^3/s）	0.116	0.265
ＳＳ（mg/L）	5	12
ＳＳ環境基準(mg/L)	50	

表 4-2(2)　水質測定結果（降雨時 2 回目）

項　目	平成 31 年 3 月 1 日（金）	
	三沢川上流側	三沢川下流側
調査時刻	10:37	9:55
天　候	曇	曇
気温（℃）	11.0	9.6
水温（℃）	10.3	10.0
流量（m^3/s）	0.107	0.242
ＳＳ（mg/L）	5	9
ＳＳ環境基準(mg/L)	50	

2) 令和元年度調査

浮遊物質量(ＳＳ)の調査結果は、表 4-3(1)～(2)に示すとおりである。

浮遊物質量(ＳＳ)は、降雨時 1 回目の調査で、三沢川上流側が 3mg/L、下流側が 12mg/L であった。降雨時 2 回目の調査では、三沢川上流側が 6mg/L、下流側が 7mg/L であった。

河川流量は、降雨時 1 回目の調査で、三沢川上流側が 0.316m^3/s、下流側が 0.482m^3/s であった。降雨時 2 回目の調査では、三沢川上流側が 0.340m^3/s、下流側が 0.493m^3/s であった。

表 4-3(1)　水質測定結果（降雨時 1 回目）

項　目	令和元年 12 月 23 日（月）	
	三沢川上流側	三沢川下流側
調査時刻	12:40	11:49
天　候	晴	晴
気温（℃）	12.5	12.5
水温（℃）	9.8	9.7
流量（m^3/s）	0.316	0.482
ＳＳ（mg/L）	3	12
ＳＳ環境基準(mg/L)	50	

表 4-3(2)　水質測定結果（降雨時 2 回目）

項　目	令和 2 年 3 月 30 日（月）	
	三沢川上流側	三沢川下流側
調査時刻	10:53	10:17
天　候	曇	曇
気温（℃）	10.0	10.0
水温（℃）	11.8	11.3
流量（m^3/s）	0.340	0.493
ＳＳ（mg/L）	6	7
ＳＳ環境基準(mg/L)	50	

。

イ　予測条件の状況

1)　雨水流出防止対策及び濁水対策の状況

雨水流出防止対策については、工事区域内で土砂が流出する可能性がある箇所の下流側に、適宜土砂流出防止用の土嚢を設置した(写真 4-2(1)～(2)参照)。

濁水対策については、濁水を一時的に貯留させるための仮設調整池及び本設調整池を設置した。仮設調整池及び本設設置箇所は図 4-2 に、設置状況は仮設調整池が写真 4-3(1)～(8)、本設調整池が写真 4-4(1)～(4)に示すとおりである。

A 工区では地下浸透型の仮設調整池を設置した(写真 4-3(1)～(2)参照)。

E 工区では、一時的に濁水を貯留させる仮設調整池を設置した。仮設調整池の中には、図 4-3 に示す竪集水枡を設置し濁水を砕石フィルター(クラッシャラン)によりろ過し、三沢川に放流した(写真 4-3(3)～(4)参照)。

F 工区では一時的濁水を貯留させる仮設調整池を設置し、上澄みを三沢川に放流した(写真 4-3(5)～(8)参照)。

また、本設調整池を C 工区と E 工区に設置した (写真 4-4(1)～(4)参照)。

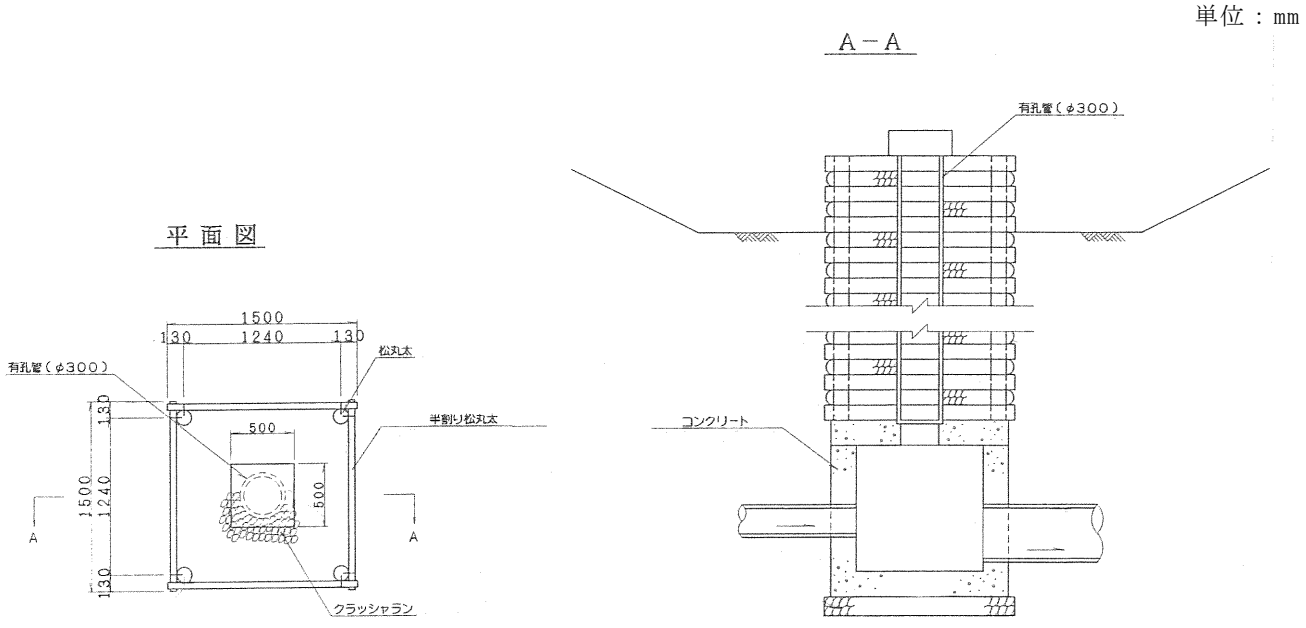


図 4-3　竪集水桝構造図

F工区　　写真番号②

撮　影　日：平成30年6月5日（火）
撮影位置：図4-4(1)（p. 118）参照

F 工区　　写真番号③

撮　影　日：平成30年11月30日（金）
撮影位置：図4-4(1)（p. 118）参照

写真4-2(1)　土砂流出防止用土嚢の設置状況（平成30年度）

E工区　　写真番号④

撮　影　日：令和元年5月16日（木）
撮影位置：図4-4(2)（p. 119）参照

F工区　　写真番号⑤

撮　影　日：令和元年5月16日（木）
撮影位置：図4-4(2)（p. 119）参照

写真4-2(2)　土砂流出防止用土嚢の設置状況（令和元年度）

仮設調整池(A工区)　　写真番号⑥

撮　影　日：平成31年3月1日(金)
撮影位置：図4-4(1)(p.118)参照

写真4-3(1)　仮設調整池の設置状況(平成30年度)

仮設調整池(A工区)　　写真番号⑦

撮　影　日：令和2年3月30日(月)
撮影位置：図4-4(2)(p.119)参照

写真4-3(2)　仮設調整池の設置状況(令和元年度)

仮設調整池(E工区)　　写真番号⑧

撮　影　日：平成31年3月1日（金）
撮影位置：図4-4(1)(p.118)参照

写真4-3(3)　仮設調整池の設置状況(平成30年度)

仮設調整池(E工区)　　写真番号⑨

砕石フィルターのある竪集水枡

撮　影　日：令和2年3月30日（月）
撮影位置：図4-4(2)(p.119)参照

写真4-3(4)　仮設調整池の設置状況(令和元年度)

仮設調整池(F工区1)　　写真番号⑩

撮　影　日:平成31年3月1日(金)
撮影位置:図4-4(1)(p.118)参照

写真4-3(5)　仮設調整池の設置状況(平成30年度)

仮設調整池(F工区2)　　写真番号⑪

撮　影　日:平成31年3月1日(金)
撮影位置:図4-4(1)(p.118)参照

写真4-3(6)　仮設調整池の設置状況(平成30年度)

仮設調整池(F工区1)　　写真番号⑫

撮　影　日:令和2年3月30日(月)
撮影位置:図4-4(2)(p.119)参照

写真4-3(7)　仮設調整池の設置状況(令和元年度)

仮設調整池(F工区2)　　写真番号⑬

撮　影　日:令和元年12月23日(月)
撮影位置:図4-4(2)(p.119)参照

写真4-3(8)　仮設調整池の設置状況(令和元年度)

本設調整池(第1)　　写真番号⑭

撮　影　日：平成31年3月1日(金)
撮影位置：図4-4(1)(p.118)参照

写真4-4(1)　本設調整池の設置状況(平成30年度)

本設調整池(第1)　　写真番号⑮

撮　影　日：令和2年3月30日(月)
撮影位置：図4-4(2)(p.119)参照

写真4-4(2)　本設調整池の設置状況(令和元年度)

本設調整池(第2)　　写真番号⑯

撮　影　日：平成30年3月1日(金)
撮影位置：図4-4(1)(p.118)参照

写真4-4(3)　本設調整池の設置状況(平成30年度)

本設調整池(第2)　　写真番号⑰

撮　影　日：令和2年3月30日(月)
撮影位置：図4-4(2)(p.119)参照

写真4-4(4)　本設調整池の設置状況(令和元年度)

2) 放流の状況（ＳＳ、流量）

① 平成 30 年度調査

本設調整池及び仮設調整池の放流口での浮遊物質量（ＳＳ）の調査結果は表 4-4(1)～(2)に示すとおりである。

降雨時 1 回目の調査時における、浮遊物質量（ＳＳ）は、仮設調整池(E 工区)の放流口で 260mg/L、仮設調整池(F 工区 1)の放流口で 53mg/L、本設調整池(第 1)の放流口で 300mg/L、本設調整池(第 2)の放流口で 37mg/L、であった。仮設調整池(A 工区)及び仮設調整池(F 工区 2)は、地下浸透のため排水の放流はなかった。なお、仮設調整池(E 工区)では、工事箇所に溜まった濁水を仮設調整池(E 工区)にくみ上げながら、掘削作業を行ったため浮遊物質量（ＳＳ）が高くなったと考えられる。また、本設調整池(第 1)では、仮設調整池内で浚渫作業を行っていたため浮遊物質量（ＳＳ）が高くなったと考えられる。

降雨時 2 回目の調査時における、浮遊物質量（ＳＳ）は、仮設調整池(E 工区)の放流口で 4mg/L、仮設調整池(F 工区 1)の放流口で 12mg/L、本設調整池(第 1)の放流口で 12mg/L、本設調整池(第 2)の放流口で 6mg/L、であった。仮設調整池(A 工区)及び仮設調整池(F 工区 2)は地下浸透のため排水の放流はなかった。

表 4-4(1) 水質測定結果（降雨時 1 回目）

項　目	平成 30 年 9 月 11 日（火）					
	仮設調整池				本設調整池	
	Ａ工区	Ｅ工区	Ｆ工区 1	Ｆ工区 2	第 1	第 2
採取時刻	13:55	10:13	9:43	9:14	11:14	10:38
天　候	曇	曇	曇	曇	曇	曇
気温（℃）	27.5	24.0	23.9	23.9	25.8	24.8
水温（℃）	地下浸透のため放流はなかった	23.0	24.0	地下浸透のため放流はなかった	25.0	24.0
流量(L/s)		0.320 (0.000320m³/s)	0.035 (0.000035m³/s)		0.533 (0.000533m³/s)	0.264 (0.000264m³/s)
SS（mg/L）		260	53		300	37

表 4-4(2) 水質測定結果（降雨時 2 回目）

項　目	平成 31 年 3 月 1 日（金）					
	仮設調整池				本設調整池	
	Ａ工区	Ｅ工区	Ｆ工区 1	Ｆ工区 2	第 1	第 2
採取時刻	11:07	14:25	14:06	11:40	11:46	12:48
天　候	曇	曇	曇	曇	曇	曇
気温（℃）	12.2	13.2	13.4	13.0	12.2	13.7
水温（℃）	地下浸透のため放流はなかった	9.2	12.9	地下浸透のため放流はなかった	10.0	11.0
流量(L/s)		0.019 (0.000190m³/s)	0.148 (0.000148m³/s)		0.051 (0.000051m³/s)	0.123 (0.000123m³/s)
SS（mg/L）		4	12		12	6

② 令和元年度調査

本設調整池及び仮設調整池の放流口での浮遊物質量(ＳＳ)の調査結果は表 4-5(1)～(2)に示すとおりである。

降雨時 1 回目の調査時における、浮遊物質量(ＳＳ)は、仮設調整池(E 工区)の放流口で 42mg/L、仮設調整池(F 工区 1)の放流口で 2mg/L、本設調整池(第 1)の放流口で 240mg/L、本設調整池(第 2)の放流口で 180mg/L であった。仮設調整池(A 工区)及び仮設調整池(F 工区 2)は、地下浸透のため排水の放流はなかった。なお、本設調整池で浮遊物質量(ＳＳ)が高かったことから、本設調整池の機能を回復させるため、浚渫を実施した。

降雨時 2 回目の調査時における、浮遊物質量(ＳＳ)は、仮設調整池(E 工区)の放流口で 4mg/L、仮設調整池(F 工区 1)の放流口で 29mg/L、本設調整池(第 1)の放流口で 79mg/L、本設調整池(第 2)の放流口で 130mg/L、であった。仮設調整池(A 工区)は地下浸透のため、排水の放流はなかった。

表 4-5(1)　水質測定結果（降雨時 1 回目）

<table>
<tr><th rowspan="3">項　目</th><th colspan="6">令和元年 12 月 23 日（月）</th></tr>
<tr><th colspan="4">仮設調整池</th><th colspan="2">本設調整池</th></tr>
<tr><th>Ａ工区</th><th>Ｅ工区</th><th>Ｆ工区 1</th><th>Ｆ工区 2</th><th>第 1</th><th>第 2</th></tr>
<tr><td>採取時刻</td><td>13:19</td><td>14:38</td><td>14:15</td><td>13:40</td><td>15:07</td><td>15:47</td></tr>
<tr><td>天　候</td><td>晴</td><td>晴</td><td>晴</td><td>晴</td><td>晴</td><td>晴</td></tr>
<tr><td>気温（℃）</td><td>27.5</td><td>8.7</td><td>8.9</td><td>9.1</td><td>10.5</td><td>10.2</td></tr>
<tr><td>水温（℃）</td><td rowspan="3">地下浸透のため放流はなかった</td><td>11.2</td><td>14.1</td><td rowspan="3">地下浸透のため放流はなかった</td><td>10.8</td><td>8.9</td></tr>
<tr><td>流量（L/s）</td><td>0.112
(0.000112m³/s)</td><td>0.596
(0.000596m³/s)</td><td>2.754
(0.002754m³/s)</td><td>1.382
(0.001382m³/s)</td></tr>
<tr><td>ＳＳmg/L）</td><td>42</td><td>2</td><td>240</td><td>180</td></tr>
</table>

表 4-5(2)　水質測定結果（降雨時 2 回目）

<table>
<tr><th rowspan="3">項　目</th><th colspan="5">令和 2 年 3 月 30 日（月）</th></tr>
<tr><th colspan="3">仮設調整池</th><th colspan="2">本設調整池</th></tr>
<tr><th>Ａ工区</th><th>Ｅ工区</th><th>Ｆ工区 1</th><th>第 1</th><th>第 2</th></tr>
<tr><td>採取時刻</td><td>12:47</td><td>13:50</td><td>13:28</td><td>11:27</td><td>12:14</td></tr>
<tr><td>天　候</td><td>曇</td><td>曇</td><td>曇</td><td>曇</td><td>曇</td></tr>
<tr><td>気温（℃）</td><td>9.8</td><td>9.8</td><td>10.0</td><td>9.2</td><td>9.8</td></tr>
<tr><td>水温（℃）</td><td rowspan="3">地下浸透のため放流はなかった</td><td>12.1</td><td>9.8</td><td>10.0</td><td>10.0</td></tr>
<tr><td>流量(L/s)</td><td>0.112
(0.000112m³/s)</td><td>1.895
(0.001895m³/s)</td><td>5.061
(0.005061m³/s)</td><td>3.281
(0.003281m³/s)</td></tr>
<tr><td>ＳＳmg/L）</td><td>4</td><td>29</td><td>79</td><td>130</td></tr>
</table>

注)仮設調整池Ｆ工区 2 は、令和 2 年 2 月で廃止した。

3) 降水量の状況

① 平成 30 年度調査

水質調査日及び前 7 日間の降水量について、気象庁地域気象観測所（府中観測所）の観測結果は、表 4-6 に示すとおりである。

降雨時 1 回目の調査は、採水当日までに 28.5mm の降雨があり、まとまった降雨の後に採水を実施した。降雨時 2 回目の調査も、採水当日までに 22.0mm の降雨があり、まとまった降雨の後に採水を実施した。

表 4-6　降水量の調査結果

（1 回目調査時）　　単位:mm

年　月	府中地域気象観測所	
	日降水量	1 時間最大値
平成30年9月4日(火)	18.0	6.0
5日(水)	19.5	19.0
6日(木)	0.0	0.0
7日(金)	2.0	1.5
8日(土)	1.5	1
9日(日)	0.5	0.5
10日(月)	24.5	8.5
11日(火)	4.0	2.0

（2 回目調査時）　　単位:mm

年　月	府中地域気象観測所	
	日降水量	1 時間最大値
平成31年2月22日(金)	0.0	0.0
23日(土)	0.0	0.0
24日(日)	0.0	0.0
25日(月)	0.0	0.0
26日(火)	0.0	0.0
27日(水)	0.0	0.0
28日(木)	19.5	5.0
3月1日(金)	2.5	1.0

注）　　は、採水日を示す(採水日の日降水量は採水終了までの合計値)。

出典：「気象庁ホームページ（気象観測データ）」

② 令和元年度調査

水質調査日及び前 7 日間の降水量について、気象庁地域気象観測所（府中観測所）の観測結果は、表 4-7 に示すとおりである。

降雨時 1 回目の調査は、採水当日までに 34.0mm の降雨があり、まとまった降雨の後に採水を実施した。降雨時 2 回目の調査は、採水前日までに 60.5mm の降雨があり、まとまった降雨の後に採水を実施した。

表 4-7　降水量の調査結果

（1 回目調査時）　単位:mm

年　月	府中地域気象観測所	
	日降水量	1 時間最大値
令和元年12月16日(月)	0.0	0.0
17日(火)	3.5	3.0
18日(水)	0.0	0.0
19日(木)	0.0	0.0
20日(金)	0.0	0.0
21日(土)	0.0	0.0
22日(日)	16.5	4.0
23日(月)	17.5	8.5

（2 回目調査時）　単位:mm

年　月	府中地域気象観測所	
	日降水量	1 時間最大値
令和2年3月23日(月)	0.0	0.0
24日(火)	0.0	0.0
25日(水)	0.0	0.0
26日(木)	0.0	0.0
27日(金)	0.0	0.0
28日(土)	9.5	4.0
29日(日)	51.0	5.5
30日(月)	0.0	0.0

注）　　は、採水日を示す。
出典：「気象庁ホームページ（気象観測データ）」

ウ　環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 4-8(1)～(3)に示すとおりである。

平成 30 年度及び令和元年度の工事における水質汚濁に関する苦情はなかった。

表4-8(1)　環境保全のための措置の実施状況(切盛土工事着手前)

評価書記載事項	実施状況
・土砂の流出を防ぐために必要に応じて計画区域周辺部に土砂流出防止柵を設置する。	・土砂が流出する可能性がある箇所の流下側に、適宜、土砂流出防止用の土嚢を設置している(写真4-2(1)～(2)参照)。
・浸透した雨水については、有孔管の周囲に砕石を敷き詰めた暗渠排水管を谷戸の谷底等に埋設する。	・平成30年度の谷戸の工事個所では、過年度に埋設した暗渠排水管により、適切に排水している。 令和元年度では、雨水が集水しやすい盛土部となる谷戸の谷底に、有孔管の周囲に砕石を敷き詰めた暗渠排水管を埋設した(写真4-5参照)。
・既設雨水管等に接続する際には、その手前に仮設沈砂池を設ける。	・計画区域からの排水を既設雨水管等に接続する際には、その手前に仮設調整池及び本設調整池を設けた(写真4-3(1)～(8)、写真4-4(1)～(4)参照)。

写真番号⑱

撮　影　日:令和元年10月1日(火)
撮影位置:図4-4(2)(p.119)参照

写真4-5　暗渠排水管の設置状況(令和元年度)

表4-8(2)　環境保全のための措置の実施状況(切盛土工事実施中)

評価書記載事項	実施状況
・切土工事に際しては、濁水及び土砂が計画区域外に流出しないようにするため、切土面の外周に小堤を残しながら作業を進める。	・切土工事に際しては、濁水及び土砂が計画区域外に流出しないようにするため、切土面の外周に小堤を残しながら掘削作業を進めた(写真4-6(1)～(2)参照)。
・盛土工事に際しては、防災土堰堤内の仮設調整池の容量を確保しつつ盛土を行い、濁水の計画区域外への流出を防止する。	・盛土工事に際しては、防災土堰堤を設けるなど、濁水が計画区域外に流出しないよう対策を行った。また、土工事に際しては、宅地造成規制法の許可内容に従い、造成範囲の降雨に対応する仮設調整池を設けた(写真4-3(1)～(8)参照)。 なお、濁水流出防止対策を強化している事項として、仮設調整池の構造を地下浸透型に改良し、極力計画区域外への濁水の排水を防止した。
・盛土部は 30～50cm 毎に転圧し、成形面は再度転圧して平滑化を図ることにより濁水の発生を防止する。	・盛土部は30～50cm毎に転圧し、成形面は再度転圧して平滑化を図ることにより濁水の発生を防止した。また、素掘側溝、素掘り枡を設置して、雨水を仮設調整池に導き、濁水の流出を防止した(写真4-7(1)～(2)参照)。
・法面の形成後は早期に芝張り等を行い、法面保護を行う。	・法面の形成の進捗に合わせ、早期に植生シート等により、法面保護を行った(写真4-8(1)～(2)参照)。

表4-8(3)　環境保全のための措置の実施状況(切盛土工事完了後)

評価書記載事項	実施状況
・各街区の区画毎及び計画区域北部から東部にかけての法面上部に防災小堤を設置する。	・濁水の流出を防止するために、F工区の切盛土工事完了箇所ののり面上部に、防災小堤または、防災小堤を兼ねた宅地擁壁を設置し、濁水の流出を極力防止した(写真4-9参照)。(写真4-9(1)～(2)参照)。
・素堀側溝、板柵水路を設置し、その途中に設けられた板柵桝に沈砂スペースを設ける。	・平成30年度に切盛土工事が完了した箇所は、濁水の流出を極力防止するため、素掘側溝、板柵水路及び板柵枡(沈砂スペース)を設置して、雨水を仮設調整池に導水した(写真4-9(1)参照)。令和元年度に切盛土工事が完了した箇所は、速やかに完成宅地として引き渡した。
・各対策については、その機能が失われないよう維持管理を定期的に行う。	・設置した素掘側溝、板柵水路、板柵枡については、その機能を維持するため、定期的に施設点検をしている。

写真番号⑲

撮　影　日：平成30年9月18日（火）
撮影位置：図4-4（1）（p. 118）参照

写真4-6（1）　切土面の小堤設置状況（平成30年度）

写真番号⑳

撮　影　日：令和元年5月16日（木）
撮影位置：図4-4（2）（p. 119）参照

写真4-6（2）　切土面の小堤設置状況（令和元年度）

写真番号㉑

撮　影　日：平成30年6月5日（火）
撮影位置：図4-4(1)（p.118）参照

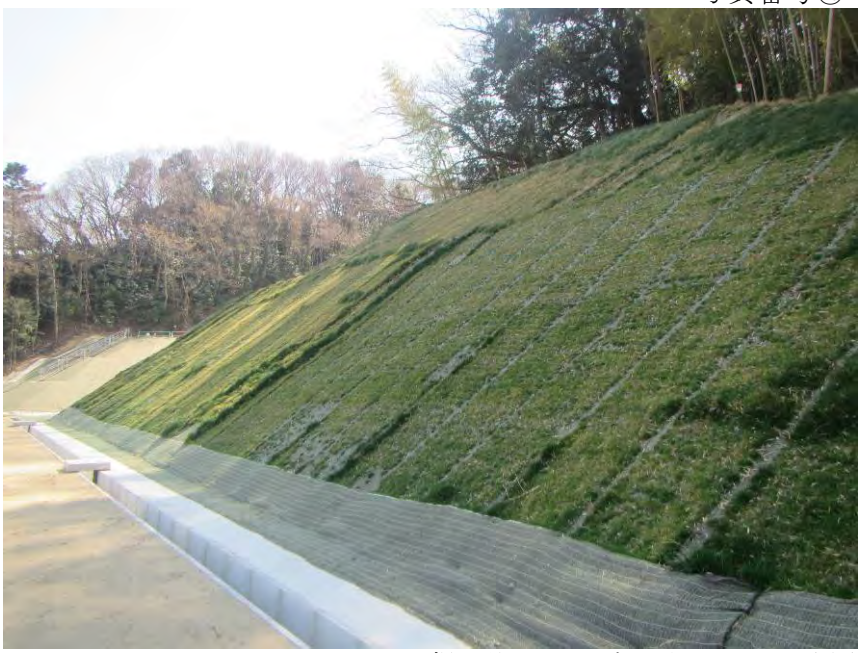
写真4-7(1)　素掘側溝及び素掘り枡の設置状況（切盛土工実施中）（平成30年度）

写真番号㉒

撮　影　日：令和元年11月21日（木）
撮影位置：図4-4(2)（p.119）参照

写真4-7(2)　板柵水路及び素掘り枡の設置状況（切盛土工実施中）（令和元年度）

写真番号㉓



撮　影　日：平成31年3月20日（水）
撮影位置：図4-4(1)（p.118）参照

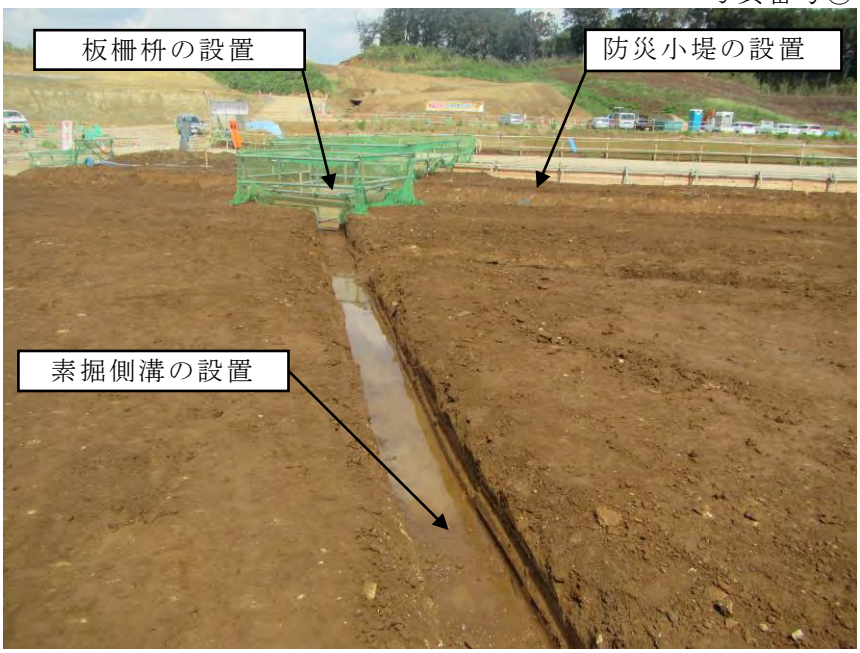
写真4-8(1)　　植生シートによる法面保護の状況（平成30年度）

写真番号㉔

撮　影　日：令和2年3月25日（水）
撮影位置：図4-4(2)（p.119）参照

写真4-8(2)　　植生シートによる法面保護の状況（令和元年度）

写真番号㉕



撮　影　日:平成 30 年 9 月 18 日(火)
撮影位置:図4-4(1)(p.118)参照

写真4-9(1)　防災小堤の設置、素掘側溝等の設置状況(切盛土完了後)(平成30年度)

写真番号㉖

撮　影　日:令和元年 11 月 21 日(木)
撮影位置:図4-4(2)(p.119)参照

写真4-9(2)　宅地擁壁の設置(切盛土完了後)(令和元年度)

図4-4(1)　写真撮影位置図(平成30年度)

図4-4(2)　写真撮影位置図(令和元年度)

(2)　評価書の予測結果と事後調査の結果との比較検討

降雨時における仮設調整池及び本設調整池から三沢川へ放流している時の、三沢川の浮遊物質量（ＳＳ）の事後調査結果は、平成 30 年度の下流側で 1 回目が 12mg/L、2 回目が 9mg/L、令和元年度の下流側で 1 回目が 12mg/L、2 回目が 7mg/L であり、いずれも三沢川の環境基準値の 50mg/L を下回っていた。

なお、平成 30 年度の 1 回目の調査で上流側が 5mg/L、下流側が 12mg/L、2 回目の調査で上流側が 5mg/L、下流側が 9mg/L、であり下流側で僅かに高くなっていたが、放流口からの排水量は 1 回目で 0.000035～0.000533m^3/s、2 回目で 0.000051～0.000190m^3/s であり、三沢川上流側の流量(1 回目の 0.116m^3/s、2 回目 0.107m^3/s)と比べて極めて少なかった(三沢川上流の流量に対して排水量の割合は、0.03～0.46%である)。また、令和元年度の 1 回目の調査で上流側が 3mg/L、下流側が 12mg/L であり下流側で僅かに高くなっていたが、放流口からの排水量は 1 回目で 0.000112～0.002754m^3/s であり、三沢川上流側の流量 0.316m^3/s と比べて極めて少なかった(三沢川上流の流量に対して排水量の割合は、0.04～0.87%である)。

以上のことから、予測結果のとおり事業の実施に伴い三沢川の浮遊物質量（ＳＳ）への影響は少なかったものと考えられる。